地域医療研修終了レポート

我々研修医の中で地域医療研修といえば、田舎に行ってのんびり地域の高齢者の診療に当たるものというイメージがある。ちょっとした旅行くらいに思っている者もいるくらいである。以前新城市民病院に来た同期からの情報によると、地域医療だと思って油断していたらかなりハードであったとのことで、かなり緊張してここ新城にやってきました。同期の話はかなりオーバーではあったものの、確かに一般的に考えられている地域医療とは少し印象が違いました。

最初に感じたのは、新しい知識を得ようとする積極性やエビデンスに基づいた医療を行おうという姿勢が強いことでした。毎朝勉強会が開催され、夕方にはカンファレンスで一般外来や救急外来に来た症例を検討し、情報を共有します。いずれに関しても上級医の先生からのフィードバックがありました。またインターネットが普及しているのは新城でも同様で、up to date の利用や論文検索は院内のいろいろなところで可能であり、今まで訪れたどの病院よりもこれらを日常的に活用しているように思われました。毎週木曜日には up to date の勉強会も開催されています。この1ヶ月間でこれらに対するアクセスの閾値が下がった事は今後の私の診療スタイルに影響を与えるのではないかと思います。

また新城市民病院はこの地域では大きな病院ではありますが、三次医療機関ではないために緊急度が高い疾患を診ることはそれほど多くありません。しかしある朝ショック状態の若年者の交通外傷が、first touch 目的で搬送されてきたことがありました。ルート確保と気管挿管などの処置の後、心肺停止する可能性を考慮して緊急セットを手に救急車で 30 分以上かかる三次医療機関に転院搬送することになりました。搬送まで患者の命を預かっているという使命感と緊張感を感じ、また日頃緊急疾患が少ないからといってこれに対する対処法を知らなくていいわけではないし、あまり機会がないからこそ頻回なトレーニングが求められるのだと気づきました。

しかし何と言っても新城では受診するのは名古屋よりもずっと高齢者が多い。この中には老老介護で生活している方や施設入所中の方、何とか独居で暮らしている方もたくさんいました。入院するまでではないが持続的な医療行為が必要な方、簡単には病院に通院できない方も多いこの地域では、訪問看護や訪問リハビリ、周囲の施設を有効利用することで医療が成り立っていました。医師の数が限られていることもあり、コメディカルの方々に任されている範囲が大きいと感じました。一か月の研修の中で訪問看護や訪問リハビリへの同行、サマリアの丘の見学などの予定が組まれており、また元気な高齢者に対しての健康講座など地域における病院外での医療の役割を知る機会をいただくことができて勉強になりました。

最後になりますが、1ヶ月という短い期間ではありますが貴重な経験をさせていただいたこと、お礼申し上げます。